

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養	社会人として必要とされる教養やマナーを幅広く学習する	1 前 2 前	60	4	○			○		○		
○			コミュニケーションスキル	社会的節勝に必須のコミュニケーションスキルについて基礎的な知識や方法を学習し、検定取得を目指す。	1 後	30	2		○		○			○	
○			英会話	グローバルな感性を養い、国際人として必要な日常英会話の基本を学習する。	1 前	30	2	○			○			○	
○			情報技術	Windowsの基本操作の習得とWord, Excel, Powerpointの基本的操作を学習する。	1 前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ生理学Ⅰ	運動によって生じる身体の機能的変化や適応について学習する。	1 前	30	2	○			○			○	
○			機能的解剖学Ⅰ	人体の構造や生理学的しくみを学習し、生命の営みを理解するとともに、生体の恒常性について考える。	1 前	30	2	○			○			○	
○			機能的解剖学Ⅱ	人体の構造や生理学的しくみを学習し、生命の営みを理解するとともに、生体の恒常性について考える。	1 後	30	2	○			○			○	
○			体力測定法	体力測定に関する理論と方法を学習し、データ解析法や判定法による実践指導を学習する。	1 後	30	2		○		○			○	
○			発育発達	発育段階に応じた身体の機能的変化や適応について学習する。	2 前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツリーダーⅠ	スポーツを取り巻く地域社会の役割や機能について学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツリーダーⅡ	スポーツ指導者と競技者の望ましい関係性を理解し、競技者育成のための指導計画の立て方を学習する。	1後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ医学Ⅰ	スポーツ関わる基礎的な医学知識を学習する。整形外科的障害のみでなく、内科的疾患についても学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			救急処置法	救急処置の基本的知識から、スポーツ現場における外傷時の救急処置、緊急時の救命処置法を学習する。	1前	30	2		○		○			○	
○			健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識や考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を学習する。	2通	30	2	○			○			○	
○			スポーツ栄養学Ⅰ	栄養学の基礎を学び、一般人やアスリートに対する栄養摂取と食生活について学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ心理学Ⅰ	スポーツ活動について心理的側面から学習し、運動意欲を高め効果的な成果を獲得するための知識を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			スポーツ心理学Ⅱ	スポーツ心理学を理解し、応用するための基礎を学習し、現場に生かせる心理技法を習得する、	1後	30	2	○			○			○	
○			トレーニング演習	トレーニングの原理原則を理解し、トレーニング計画のたて方を学習する。	1前	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			レジスタンストレーニングⅠ	レジスタンストレーニングを指導するための基礎的知識および指導法を学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			レジスタンストレーニングⅡ	レジスタンストレーニングを指導するための指導法を学習する。	1後	30	2	○			○			○	
○			エアロビックダンスⅠ	エアロビックダンスの特性を理解し、正しいステップの基礎をマスターする。	1前	30	6	○			○			○	
○			エアロビックダンスⅡ	筋コンディショニングを含むエアロビックダンスの応用プログラムをマスターする。	1後	30	2	○			○			○	
○			ウォーキング・ジョギング	ウォーキングとジョギングの特性を理解し、基本的指導法をマスターする。	1後	30	2	○			○	△		○	
○			アクアビクス	アクアビクスの特性を理解し、基本的指導法をマスターする。	1後	30	2	○			○			○	
○			水泳実習	水中運動の特性を理解し、4泳法の基礎をマスターする。	1前	30	2	○			○			○	
○			進路指導	研修、就職活動、資格取得に向けての準備などに必要な知識やマナーを学び、進路決定を行う。	1後 2前	30	2	○			○			○	
○			進級制作	1年次で学習したことや体得したことを、個人やグループでテーマを設定し、過大に取り組む。	1後	60	4	○			○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作	2年間で学習し体得したことを、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。	2通	90	6	○			○		○		
		○	海外実学研修	海外の再選他のスポーツ関連施設や提携教育施設で実習を行う。併せて、国際性を持った人格を養う。	1後	60	4	○			○	○	○	△	
○			実技宿泊演習	3泊4日の宿泊実習を通じて、規則正しい生活習慣を見直すとともに各コースの専門性を高める。	2後	30	2	○			○		○	△	
○			業界研修Ⅰ	志望する業界で研修を行い、これまで学んだ知識・技術を実践で確認することにより、就職活動に繋げる。	1後	60	2				○		○	○	○
○			業界研修Ⅱ	志望する業界で研修を行い、これまで学んだ知識・技術を実践で確認することにより、就職活動に繋げる。	2前	60	2				○		○	○	○
		○	ゼミ	業界より特別講師を招き、業界の最新情報等についての講義を行う。	随時	時数による		○			○		○		
		○	特別講義	業界より特別講師を招き、業界の最新情報等についての講義を行う。	随時	4回で1単位		○			○		○		
		○	ボランティア	学外の課外活動として、各種大会などのボランティア活動を行う。これらの経験からリーダーシップやフォロワーシップ等を体得する。	随時	時数による					○		○	○	
○			トレーニング科学	あらゆる対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導について学習する。	1後	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		スポーツバイオメカニクス	筋骨格の基礎と力学的知識を習得し、各種基本運動動作を学習する。	1後	30	2	○			○			○		
	○		スポーツ生理学Ⅱ	運動器や呼吸循環器の機能を理解したうえで、疲労の原因やトレーニング効果について学習する。	1後	30	2	○			○				○	
	○		スポーツ医学Ⅱ	上肢のスポーツ外傷・障害の病態や発生機序、診断方法、徒手検査について理解し習得する。	1後	30	2	○			○					○
	○		スポーツ医学Ⅲ	下肢のスポーツ外傷・障害の病態や発生機序、診断方法、徒手検査について理解し習得する。	2前	30	2	○			○					○
	○		スポーツ内科学	競技者の内科的疾患の対処法やメディカルチェックを学習する。また感染症の対応策を習得する。	2前	30	2	○			○					○
	○		スポーツ栄養学Ⅱ	運動と栄養について知識と理解を深める。スポーツ選手に対する栄養指導の留意点や指導法を学習する。	1後	30	2	○			○					○
	○		アスレティックトレーナー論	アスリートを総合的にサポートするためには、正しい知識や技術の習得が必要であることを学習する。	2前	30	2	○			○					○
	○		アスレティックトレーナー講座	パフォーマンス維持向上を目的とした外傷予防や応急措置、再発防止に関する知識と技術を学習する。	2後	30	2		○		○					○
	○		測定と評価Ⅰ	アスレティックトレーナーに必要な評価や検査測定法、動作の観察力と分析力を学習する。	2前	30	2	○			○					○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		測定と評価Ⅱ	評価の意義と考え方を学習し、問題点抽出から改善までの過程を理解する。検査測定の手技を習得する。	2	30	2		○		○			○		
	○		コンディショニング理論演習Ⅰ	コンディショニングの方法と目的を理解する。競技特性、外傷予防法を学び、現場へ知識を還元する。	2前	30	2		○		○				○	
	○		コンディショニング理論演習Ⅱ	マシンやフリーウェイとによるトレーニング法や正しいフォームを理解し人に伝える能力を身に付ける。	2後	30	2		○		○				○	
	○		アスレティックリハビリテーションⅠ	四肢のアスレティックリハビリテーションに必要な評価測定、物理療法、補装具について学習する。	2前	60	4		○		○				○	
	○		アスレティックリハビリテーションⅡ	体幹部・頸部のアスレティックリハビリテーションに必要な評価測定と障害別計画立案を学習する。	2前	60	2		○		○				○	
	○		アスレティックリハビリテーションⅢ	受傷直後から機能回復期の各段階、種目運動別リハビリテーションについて実例を通して学習する。	2前	30	2		○		○				○	
	○		AT現場実習	スポーツ現場での見学や実習を行い、専門分野で学んだ知識・技術を実践で確認する。	1通 2通	180	6			○	△	○	○	○	△	
	○		スポーツ実技Ⅰ	屋内スポーツとして、乳幼児から高齢者を対象とした体操やトレーニングを実践を通して学習する。	1後	30	2		○			○			○	
	○		スポーツ実技Ⅱ	屋外スポーツとして、発育発達段階に応じた運動遊びやゲームの指導法を実践を通して学習する。	2後	30	2		○			○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ科学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		コーチング論	指導者として必要なコーチングスキルについて実践と講義を通して学習する。	2後	30	2		○		○			○	
	○		レクリエーション演習	レクリエーションの基礎的理論と指導者の役割、指導法について学習する。	2後	30	2		○		○				○
	○		総合型地域スポーツクラブ実習	総合型地域スポーツクラブにおいて実習をするための指導計画書の作成、プレゼンテーションを行う。	2後	30	2		○			○			○
	○		スタジオプログラム	フィットネスインストラクターに必要なグループエクササイズの指導理論について学習する。	2通	60	4		○		○				○
	○		介護職員初任者研修講座	介護職員初任者研修の資格取得を目指す。	1通	120	8		○		○	○			○
		○	各種受験対策	各種試験、資格の取得を目指した筆記及び実技試験の対策を行う	2通	60	4		○		○		△		○
合計					60科目		1,740単位時間( 104単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程修了の認定を行う。		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

(医療専門課程視能訓練学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			数学	医療分野の統計学の基礎及び生理光学などの専門科目における基礎の数学を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
○			統計学	卒業研究や卒後の疫学的研究に役立てるため、集めたデータの処理・分析や解析の統計法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			情報処理学 I	日常生活に必須となったパソコンの基本操作とわぼード・エクセル及びインターネット利用の初歩を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			生物学	生命の基礎的知識を習得し、生理科学・発生・環境・遺伝について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			物理学	物理学の基本的思考法を理解する。視機能に直接関係する光の性質について考察する。	1前	30	2	○			○			○	
○			心理学	人間の心理について心理・社会・生物学的要因の相互作用について学び、その病因についても考える。	1前	30	2	○			○			○	
○			英語	グローバルな感性を養う。そのためのコミュニケーションに必要な簡単な英会話を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			医学英語	医学の専門用語を習得し、視能のリハビリテーションに関する文献を読みこなす能力を養う。	2後	30	2	○			○			○	
○			人間発達学	人間発達の各段階に適切に対応できるよう、各段階での心身の成長過程を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	



授業科目等の概要

(医療専門課程視能訓練学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人体の構造と機能Ⅰ	人体の仕組みを学び、人体機能が疾病に対して反応・変化する体のメカニズムを学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅱ	人体の仕組みを学び、人体機能が疾病に対して反応・変化する体のメカニズムを学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
○			倫理学	倫理学とはいかなる学問であるかを理解し、その特徴ともなっている基本的思考法を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
○			病理学	病態の基礎と、疾病の原因・病因と疾病の種類・回復のメカニズムを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			医学概論	医学の目的とその成り立ちについての考えを示し、歴史的観点から医学思考の成立を跡付け、医学の進歩によって可能になった医療の現状を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			臨床関連医学	医療従事者として必要な医学一般の基礎知識として、救命法、外科、内科などの概論を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			臨床心理学	各発達段階の特性を理解し、対人援助に生かし、対象者にふさわしい援助法を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			視覚生理学Ⅰ	外界からの可視光線をどのように処理し、脳に伝えるかを視覚生理学の基礎から学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			視覚生理学Ⅱ	国家試験対策として、視覚系の各要素の役割と機能を学ぶ。	3前	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程視能訓練学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚生理学 実習	色覚・光覚・電気生理検査を中心に視覚生理学で学んだ知識をもとに対象・検査手順・評価を学ぶ。	1 後	60	2			○	○		○	○	
○			視器の 解剖生理学	光の受容器としての眼球とそれを取り巻く付属器の解剖・生理について学び、機能障害による病理について学ぶ。	1 前	45	3	○			○			○	
○			医用電子工学 概論	一般的なME機器を中心に、その基本原理、操作の基本、安全性を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○			視能検査 機器学	検査を行う上での基本的知識を学び、各検査における結果とその評価を学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○		
○			公衆衛生学	健康に影響する環境、身体的・精神的・心理的影響について学び、疫学的方法により健康を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
○			保育	保育理論、子どもの成長、発達及び特徴を学ぶ。	1 後	30	2	○			○			○	
○			社会福祉概論	社会福祉の歴史や概念などを理解し、現代社会の福祉関連問題について広く学ぶ。	1 後	30	2	○			○			○	
○			視覚障害者 リハビリテー ション	視覚障害者の実態とリハビリテーションの現状について学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○		
○			関係法規	視能訓練士法をはじめとし、関連業種の法律にも触れ業務遂行上の法的知識を学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程視能訓練学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視能矯正学 概論	視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正の構築までを学ぶ。	1 通	60	4	○			○		○		
○			基礎視能 矯正学	両眼視機能および眼球運動の基礎を学ぶ。	1 前	30	2	○			○		○		
○			生理光学Ⅰ	眼球をひとつの光学系としてとらえ、その仕組み・調節・屈折異常について学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
○			生理光学Ⅱ	眼球の光学的構造を理解し、屈折・調節の機能を学び、レンズ・プリズムの特徴と検査での有用性を理解する。	3 後	15	1	○			○			○	
○			視能矯正学 実習	視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正で学んだ知識の下、対象・検査手順・評価を学ぶ。	1 前	60	2			○	○		○		
○			眼科薬理学Ⅰ	自律神経系・中枢神経系・末梢神経系作用薬物に分類し、眼の機能・神経に関連する薬物を中心に学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○	
○			眼科薬理学Ⅱ	自律神経系・中枢神経系・末梢神経系作用薬物に分類し、眼の機能・神経に関連する薬物を中心に学ぶ。	3 後	15	1	○			○			○	
○			視能矯正学	国家試験対策として視機能や眼科学の基礎となる知識を学ぶ。	3 後	30	2	○			○		○	○	
○			進級・卒業 研究	専門知識・技術の習得の課程で、疑問に思ったことや興味を持ったテーマを、問題発見から解決まで研究を通して学ぶ。	1 2 3 通	105	7	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程視能訓練学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視能検査学	両眼視機能の検査について、対象・検査法・評価などについて学ぶ。	2通	60	4	○			○		○		
○			生理光学実習	屈折・調節検査・プリズムを用いる眼位検査を中心に、生理光学で学んだ知識を下に、対象・検査手順・評価を学ぶ。	2前	60	2			○	○		○	○	
○			視能生理学実習	色覚・光覚・視野・電気生理検査を中心に視覚生理学で学んだ知識を下に、対象・検査手順・評価を学ぶ。	2前	60	2			○	○		○	○	
○			視能検査学実習Ⅰ	視能検査学で学んだ、視機能の検査・診断を実習によって理解を深める。	2後	60	2			○	○		○		
○			視能検査学実習Ⅱ	視能検査学に基づき、その検査法を実際の手順に従って実施し、実践感覚を養う。	3前	30	1			○	○		○		
○			神経眼科学Ⅰ	皮膚から末梢にいたる病変を学び、鑑別診断から治療までを系統立てて理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			神経眼科学Ⅱ	国家試験対策のために重要な皮膚から末梢にいたる病変を学び、鑑別診断から治療までを系統立てて理解する。	3後	15	1	○			○			○	
○			眼疾病学Ⅰ	視能訓練士が関わる眼疾患を中心にその病態・検査法・鑑別診断・治療法を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○	○	
○			眼疾病学Ⅱ	国家試験対策のために重要な眼疾患の病態・検査結果・鑑別診断を学ぶ。	3前	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程視能訓練学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ロービジョン医学	病態別ロービジョンケアの実際について患者さまの評価・対応の実際を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			視能障害学	斜視・弱視など両眼視機能の障害について学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
○			視能訓練学Ⅰ	斜視・弱視など両眼視機能の障害を持つ患者さまへの訓練方法を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			視能訓練学Ⅱ	斜視・弱視など両眼視機能の障害を持つ患者さまへの訓練方法を学ぶ。	2後	90	6	○			○				○
○			視能訓練学実習Ⅰ	訓練器具を用い、斜視・弱視の分類別訓練法を習得する。	2前	60	2			○	○			○	○
○			視能訓練学実習Ⅱ	訓練器具を用い、斜視・弱視の分類別訓練法を習得する。	2後	60	2			○	○			○	○
○			視能訓練学実習Ⅲ	訓練器具を用い、斜視・弱視の分類別訓練法を習得する。	3前	30	1			○	○			○	○
○			臨地実習Ⅰ	視能訓練士としての役割を理解し、一連の流れの中で接遇・症例による検査法・鑑別法・評価法の実際を学ぶ。	3前	315	7			○		○			○
○			臨地実習Ⅱ	臨床の現場で直接患者さまに触れながら、一連の流れの中で接遇・症例による検査法・鑑別法・評価法の実際を学ぶ。	3通	315	7			○		○			○
合計					54科目		2,520単位時間(124単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程履修の認定を行う。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復科Ⅰ部) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学	「こころ」と「からだ」と「社会」の枠組みの中で、身体的な病気と心身の病における心理・社会・生物学的要因の相互作用について学ぶ。	1 2期3期	60	4	○			○			○		
○			理科学	医療従事者として、また社会人として必要な理系分野の教養を学ぶ。	1 1期	30	2	○			○				○	
○			保健体育	スポーツに伴う身体の変化、障がいの発生、予防法を学ぶ。	2 1期2期	60	4	○			○		○			
○			英語	グローバルな感性を養い、コミュニケーションに必要な英会話を学ぶ。	1 2期	30	2	○			○				○	
○			生物学	生命の基本手は知識を習得し、併せて解剖学・生理学の基本知識を学習する。	1 1期	30	2	○			○				○	
○			解剖学	柔道整復師に必要な切ってきた解剖学的知識を習得する。	1 2期3期 2 1期2期	180	6	○			○				○	
○			生理学	生命現象の仕組みを学ぶ。	1 2期3期 2 1期2期	180	6	○			○		○			
○			運動学	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について学ぶ。	2 2期3期	60	2	○			○				○	
○			病理学	病理学の学習を通じて各種の疾患を把握する。	2 1期2期 3期	90	3	○			○				○	
○			一般臨床医学	柔道整復師として必要な診察法、および代表的な内科疾患について理解する。	2 1期2期 3期	90	3	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復科Ⅰ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			外科学概論	外科学の基礎を学ぶ。	2 1期2期 3期	90	3	○			○		○		
○			整形外科	整形外科における疾患別各論、症例などを学ぶ。	3 1期2期	60	2	○			○			○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の基本的な知識、評価法、診断、技術、実際を学ぶ。	3 1期2期	60	2	○			○			○	
○			衛生学・公衆衛生	医療従事者として必要な健康の概念を場は広く理解する。	1 2期3期	60	2	○			○			○	
○			関係法規	柔道整復師として必要な基本的法規を学ぶ。	3 1期	30	1	○			○		○		
○			柔道	柔道を通じて、柔道の基本的な礼法や技法について習得する。	1 2期3期 3 1期2期	120	4			○	○			○	○
○			柔道整復学Ⅰ	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に学ぶ。	1 通	90	3	○			○		○		
○			柔道整復学Ⅱ	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に学ぶ。	1 通	90	3	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復学Ⅲ	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に学ぶ。	1 3期	30	1	○					○		
○			柔道整復学Ⅳ	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上で必要な基本的知識を総合的に学ぶ。	1 3期 2 1期	90	3	○							○
○			臨床柔道整復学Ⅰ	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。	1 3期 2 1期2期	90	3	○						○	
○			臨床柔道整復学Ⅱ	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。	2 3期 3 1期2期	90	3	○						○	
○			臨床柔道整復学Ⅲ	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。	3 通	90	3	○						○	
○			臨床柔道整復学Ⅳ	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。	3 通	90	3	○						○	
○			臨床柔道整復学Ⅴ	高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学習する。	3 通	90	3	○						○	
○			基礎柔道整復実技Ⅰ	基礎的な柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い技術の基礎を習得する。	1 通	90	3			○				○	○
○			基礎柔道整復実技Ⅱ	基礎的な柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い技術の基礎を習得する。	1 3期 2 1期2期	60	2			○				○	
○			柔道整復実技Ⅰ	学習した柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い技術を習得する。	2 1期	30	1			○				○	



授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復 実技Ⅱ	学習した柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い技術を習得する。	2 3期 3 1期2期	90	3			○	○		○		
○			柔道整復 実技Ⅲ	学習した柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い技術を習得する。	2 3期 3 1期2期	90	3			○	○		○		
○			柔道整復 実技Ⅳ	学習した柔道整復学を活用、応用し模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことによって、より臨床に近い技術を習得する。	3 2期3期	60	2			○	○		○	○	○
○			臨床実習	臨床現場での実習を行うことで、より高度な知識や技術を習得するとともに柔道整復師としてのあるべき姿勢などに関して総合的に学ぶ。	3 通	90	2			○	○		○		
合計				32科目						2,490単位時間(		89単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の結果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程修了の認定を行う (留意事項)	1 学年の学期区分	1・2・3期
	1 学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	人間の心理における心理・社会・生物学的要因の相互作用について学び、その病因についても考える。	1前	30	2	○			○			○	
○			教育学	教育学の基本的な考えを学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
○			社会福祉原論	社会福祉の歴史や概念などを理解し、現代社会の福祉関連問題について広く学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
○			障害者福祉論	障害者福祉の歴史や概念（ノーマライゼーションやICFなど）を理解し、基本的な知識を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
○			物理学	物質とその間に働く相互作用を理解すること（力学的理解）で、人体の各関節の動きを理解する。	1前	30	2	○			○				○
○			生物学	生命の基本的知識を習得し、併せて、解剖学・生理学・運動学学習の基本知識とする。	1前	30	2	○			○				○
○			統計学	卒業研究や卒後の疫学的研究に役立てるため、集めたデータの処理・分析や解析の統計法を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
○			保健科学	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について学習する。	1前	60	2	△		○	△	○			○
○			英語 I	グローバルな感性を養う。そのためのコミュニケーションに必要な簡単な英会話を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○

## 授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英語Ⅱ	英会話による日常のコミュニケーション能力を高め、日常生活に困らないグローバルな人間性を養う。	2後	30	2	○			○			○	
○			医学英語	医学の専門用語を習得し、リハビリテーションに関する文献を読みこなす能力を養う。	3後	30	2	○			○				○
○			解剖学Ⅰ	人体の筋骨格系の構造について学ぶ。また人体模型を使用したり、ペアになって触診も行う。	1前	60	2	○			○				○
○			解剖学Ⅱ	人体の神経系感覚器系の構造について学ぶ。	1後	30	1	○			○				○
○			解剖学実習	解剖学で学んだ知識をもとに、標本に実際に触れながら、具体的な人体構造を学習する。	1後	90	2			○	○				○
○			生理学Ⅰ	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学ぶ。	1前	60	2	○			○				○
○			生理学Ⅱ	運動や動作時の呼吸・循環機能について理解し、またその変化についても学ぶ。	1後	30	1	○			○				○
○			生理学実習	生理学で学んだ知識をもとに、グループで実習を行いながら、人体生理学の理解を深める。	1後	45	1			○	○				○
○			運動学	人体の各関節の運動について学ぶ。また歩行や日常生活動作の動作分析についても学ぶ。	1後	60	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			運動学実習	歩行などの動作分析についても、実技を交えながら理解を深める。	2前	60	2	△		○	○			○		
○			人間発達学	人間発達の各段階に適切に対応できるよう、出生から成人に至るまでの心身の成長過程を学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	
○			医学概論	医学とは何か。その歴史や体系などについて学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	
○			病理学	疾病を学ぶにあたり、組織・細胞などの形態学的な病変について学習する。	1後	30	1	○			○				○	
○			障害論	基礎的な社会福祉や障害、また広い意味でノーマライゼーションなどの学習をする。	2後	30	1	○			○		○			
○			臨床心理学	身体的な疾病ばかりでなく、心の病についても理解を深め、心身ともに援助するための知識を学ぶ。	2後	60	2	○			○				○	
○			一般臨床医学	医療従事者として必要な医学一般の知識(救急法、外科、内科の概論等)について学ぶ。	2後	30	1	○			○				○	
○			内科学	理学療法士に必要な内科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3通	60	2	○			○				○	
○			整形外科学	理学療法士に必要な整形外科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	2通	60	2	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			神経内科学	理学療法士に必要な神経内科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	2通	60	2	○			○			○	
○			精神医学	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3後	30	1	○			○				○
○			小児科学	理学療法士に必要な小児疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3前	30	1	○			○				○
○			老年学	高齢者の特性や、高齢者に特徴的な疾患の病態・診断・治療および予防について学ぶ。	3後	30	1	○			○				○
○			救急医学	基本的な救急医学・治療について学び、また様々な疾病の病態についても学ぶ。	3後	30	1	○			○				○
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の歴史や対決について学び、また障害の診断・治療についても学ぶ。	1後	30	1	○			○				○
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や概念など理解し、また生涯や保健医療制度についても学ぶ。	1前	30	1	○			○		○		
○			社会保障制度論	社会保障の体系について学び、医療保険などの理解を深める。	4前	30	1	○			○				○
○			理学療法概論 I	理学療法の歴史・定義などについて学び、関連法規や業務内容についても知り、職業理解を深める。	1前	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法概論Ⅱ	理学療法士を取り巻く環境や現状、今後の展望について学習する。	1後	30	1	○			○		○		
○			病態運動学	運動学で学んだ人体構造の各関節の運動をもとに、その病態像について学ぶ。	3前	60	2	○			○		○		
○			理学療法研究法	卒業論文作成のため、研究の進め方や作成方法を学ぶ。	4後	30	1	○			○		○		
○			理学療法教育・職場管理法	医療・福祉現場における教育について、カルテやリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理についても学ぶ。	4前	30	1	○			○		○		
○			卒業研究	学習の集大成として実習での症例検討、実験及び疫学的調査研究により理学療法の理解を深める。	4通	120	1	○			○		○	○	
○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価の考え方やその流れについて学ぶ。また、形態測定や可動域測定など評価技術についても学習する。	1前	60	2	○			○		○		
○			理学療法評価学Ⅱ	1年次に学習した評価技術を復習し、さらにADLテストや呼吸・循環機能検査なども学び習得する。	2通	60	2	○			○		○		
○			理学療法評価学実習	理学療法評価学で学習したものを、実際の相手を交えて実習することで深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○			○	
○			運動療法学Ⅰ	運動療法の概念について学び、また運動器の構造・機能の回復、基本的な運動療法技術を習得する。	2前	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			運動療法学 実習Ⅰ	運動療法学Ⅰで学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで運動療法の深い理解に繋げる。	2前	45	1			○	○			○		
○			運動療法学Ⅱ	各種運動療法技術について学び、実技を通じて習得する。さまざまな疾患に適応する技術も学ぶ。	2後	30	1	○			○				○	
○			運動療法学 実習Ⅱ	運動療法学Ⅱで学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで運動療法の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○			○		
○			物理療法学	物理療法の概念や、各種物理療法機器の適応・禁忌を学び、機器の使用方法を習得する。	2後	30	1	○			○			○		
○			物理療法学 実習	物理療法で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで物理療法の深い理解に繋げる。	2後	45	1	○			○			○		
○			生活環境学	保健・福祉の概念を知り、関連法規についても学ぶ。社会的な生活環境の理解を深める。	2前	30	1	○			○			○		
○			日常生活活動学	日常生活活動の概念や使用機器について学ぶ。また、その評価・治療を習得する。	2前	30	1	○			○			○		
○			日常生活活動学 実習	日常生活活動学で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで日常生活活動学の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○			○		
○			義肢装具学	義肢・装具の構造と機能、各疾患の適応について学ぶ。また、実際に装着をして理解を深める。	2前	30	1	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			義肢装具学実習	義肢装具学で学んだ知識を、実際の相手を変えて実習することで義肢装具学の深い理解に繋げる。	2後	90	2			○	○			○	
○			理学療法技術論Ⅰ整形外科疾患	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。グループワークを通じて、症例検討も行う。	3前	60	2	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅱ中枢神経疾患	中枢神経疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。グループワークを通じて、症例検討も行う。	3後	60	2	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅲ呼吸・循環疾患	呼吸・循環疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。小児期疾患の症例検討も行う。	3前	30	1	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅳ小児期疾患	小児期疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。小児期疾患の症例検討も行う。	3前	30	1	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅴ難病・スポーツ障害	難病・スポーツ障害に対する理学療法評価・治療について学ぶ。症例検討も行う。	3後	30	1	○			○			○	
○			理学療法演習	理学療法についての課題を設定し、グループごとに討議、発表を行い学習する。	3通	60	2		○		○			○	
○			地域理学療法学	地域理学療法の意義・現状について学ぶ。具体的な事例をもとに、その流れについても理解する。	3後	30	1	○			○			○	
○			地域理学療法学実習	地域理学療法学の知識をもとに、実際の相手を対象にしながら、市街地に出向き学習する。	4前	45	1			○	○			○	



授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ケアマネジメント論	高齢化社会である今日、ケアマネジメントとは何か、なぜ必要とされているのかを主に学ぶ。	3後	30	1	○			○		○		
○			地域福祉論	地域福祉の意義・現状について学ぶ。障害があっても、年齢を重ねても地域で暮らせる工夫を学習する。	3後	30	1	○			○		○		
○			臨床評価実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価（知識・技術など）ができることを目標にする。	3後	135	3			○		○		○ ○	
○			臨床評価実習Ⅱ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価（知識・技術など）ができることを目標にする。	3後	135	3			○		○		○ ○	
○			臨床実習Ⅰ	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し学習する。	4前	315	7			○		○		○ ○	
○			臨床実習Ⅱ	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し学習する。締めくくりの実習となる。	4後	315	7			○		○		○ ○	
	○		徒手理学療法学	徒手理学療法における評価・治療法を理念に基づき学習をする。	4前	30	1	○			○		○		
	○		理学療法海外セミナー	米国のリハビリテーションを実際に体験することによって国際的な視野から理学療法に関する職業観を得る。	3後	30	1	○					○		
	○		コミュニケーション論	社会人として基本となるコミュニケーション技術を理論的に習得し、将来の業務に役立てる。	1前	30	1	○			○			○	

## 授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科 I 部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報処理学 I	日常生活に必須となった、パソコンの基本操作とワード・エクセル及びインターネット利用の初歩を学ぶ。	2 前	30	1	○			○			○	
合計						79科目	3,735単位時間( 119単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年間で3,735時間(119単位)を修得した者で、卒業認定された者	1学年の学期区分	前期・後期
	1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			心理学	人間の心理における心理・社会・生物学的要因の相互作用について学び、その病因についても考える。	1前	30	2	○			○			○		
○			教育学	教育学の基本的な考えを学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
○			社会福祉原論	社会福祉の歴史や概念などを理解し、現代社会の福祉関連問題について広く学ぶ。	1後	30	2	○			○				○	
○			障害者福祉論	障害者福祉の歴史や概念（ノーマライゼーションやICFなど）を理解し、基本的な知識を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○	
○			物理学	物質とそこに働く相互作用を理解すること（力学的理解）で、人体の各関節の動きを理解する。	1前	30	2	○			○				○	
○			生物学	生命の基本的知識を習得し、併せて、解剖学・生理学・運動学学習の基本知識とする。	1前	30	2	○			○				○	
○			統計学	卒業研究や卒後の疫学的研究に役立てるため、集めたデータの処理・分析や解析の統計法を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○	
○			保健科学	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について学習する。	1前	60	2	△			○	○	○		○	
○			英語 I	グローバルな感性を養う。そのためのコミュニケーションに必要な簡単な英会話を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			医学英語	医学の専門用語を習得し、リハビリテーションに関する文献を読みこなす能力を養う。	3後	30	2	○			○			○		
○			解剖学Ⅰ	人体の筋骨格系の構造について学ぶ。また人体模型を使用したり、ペアになって触診も行う。	1前	60	2	○			○				○	
○			解剖学Ⅱ	人体の神経系感覚器系の構造について学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	
○			解剖学実習	解剖学で学んだ知識をもとに、標本に実際に触れながら、具体的な人体構造を学習する。	1後	90	2			○	○				○	
○			生理学Ⅰ	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学ぶ。	1前	60	2	○			○				○	
○			生理学Ⅱ	運動や動作時の呼吸・循環機能について理解し、またその変化についても学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	
○			生理学実習	生理学で学んだ知識をもとに、グループで実習を行いながら、人体生理学の理解を深める。	1後	45	1			○	○				○	
○			運動学	人体の各関節の運動について学ぶ。また歩行や日常生活動作の動作分析についても学ぶ。	1後	60	2	○			○				○	
○			運動学実習	歩行などの動作分析についても、実技を交えながら理解を深める。	2前	60	2			○	○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			人間発達学	人間発達の各段階に適切に対応できるよう、出生から成人に至るまでの心身の成長過程を学ぶ。	1 後	30	1	○			○			○		
○			医学概論	医学とは何か。その歴史や体系などについて学ぶ。	1 後	30	1	○			○				○	
○			病理学	疾病を学ぶにあたり、組織・細胞などの形態学的な病変について学習する。	1 後	30	1	○			○				○	
○			障害論	基礎的な社会福祉や障害、また広い意味でノーマライゼーションなどの学習をする。	2 後	30	1	○			○				○	
○			臨床心理学	身体的な疾病ばかりでなく、心の病についても理解を深め、心身ともに援助するための知識を学ぶ。	2 後	60	2	○			○				○	
○			内科学	理学療法士に必要な内科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3 通	60	2	○			○				○	
○			整形外科学	理学療法士に必要な整形外科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	2 通	60	2	○			○				○	
○			神経内科学	理学療法士に必要な神経内科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	2 通	60	2	○			○				○	
○			精神医学	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3 後	30	1	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			小児科学	理学療法士に必要な小児疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3前	30	1	○			○			○	
○			老年学	高齢者の特性や、高齢者に特徴的な疾患の病態・診断・治療および予防について学ぶ。	3後	30	1	○			○				○
○			救急医学	基本的な救急医学・治療について学び、また様々な疾病の病態についても学ぶ。	3前	30	1	○			○				○
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の歴史や対決について学び、また障害の診断・治療についても学ぶ。	1後	30	1	○			○				○
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や概念など理解し、また生涯や保健医療制度についても学ぶ。	1前	30	1	○			○				○
○			社会保障制度論	社会保障の体系について学び、医療保険などの理解を深める。	4前	30	1	○			○				○
○			理学療法概論Ⅰ	理学療法の歴史・定義などについて学び、関連法規や業務内容についても知り、職業理解を深める。	1前	30	1	○			○			○	
○			理学療法概論Ⅱ	理学療法士を取り巻く環境や現状、今後の展望について学習する。	1後	30	1	○			○			○	
○			病態運動学	運動学で学んだ人体構造の各関節の運動をもとに、その病態像について学ぶ。	3前	60	2	○			○				○

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法教育・職場管理法	医療・福祉現場における教育について、カルテやリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理についても学ぶ。	4前	30	1	○			○			○	
○			卒業研究	学習の集大成として実習での症例検討、実験及び疫学的調査研究により理学療法の理解を深める。	4後	120	4	○			○		○		
○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価の考え方やその流れについて学ぶ。また、形態測定や可動域測定など評価技術についても学習する。	1前	60	2	○			○			○	
○			理学療法評価学Ⅱ	1年次に学習した評価技術を復習し、さらにADLテストや呼吸・循環機能検査なども学び習得する。	2通	60	2	○			○		○		
○			理学療法評価学実習	理学療法評価学で学習したものを、実際の相手を交えて実習することで深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○		○		
○			運動療法学Ⅰ	運動療法の概念について学び、また運動器の構造・機能の回復、基本的な運動療法技術を習得する。	2前	30	1	○			○		○		
○			運動療法学実習Ⅰ	運動療法学Ⅰで学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで運動療法の深い理解に繋げる。	2前	45	1			○	○		○		
○			運動療法学Ⅱ	各種運動療法技術について学び、実技を通じて習得する。さまざまな疾患に適応する技術も学ぶ。	2後	30	1	○			○		○		
○			運動療法学実習Ⅱ	運動療法学Ⅱで学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで運動療法の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			物理療法学	物理療法の概念や、各種物理療法機器の適応・禁忌を学び、機器の使用方法を習得する。	2後	30	1	○			○			○	
○			物理療法学実習	物理療法で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで物理療法の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○				○
○			生活環境学	保健・福祉の概念を知り、関連法規についても学ぶ。社会的な生活環境の理解を深める。	2前	30	1	○			○			○	
○			日常生活活動学	日常生活活動の概念や使用機器について学ぶ。また、その評価・治療を習得する。	2前	30	1	○			○			○	
○			日常生活活動学実習	日常生活活動学で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで日常生活活動学の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○			○	
○			義肢装具学	義肢・装具の構造と機能、各疾患の適応について学ぶ。また、実際に装着をして理解を深める。	2前	30	1	○			○			○	
○			義肢装具学実習	義肢装具学で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで義肢装具学の深い理解に繋げる。	2後	90	2			○	○				○
○			理学療法技術論Ⅰ 整形外科疾患	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。グループワークを通じて、症例検討も行う。	3前	60	2	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅱ 中枢神経疾患	中枢神経疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。グループワークを通じて、症例検討も行う。	3後	60	2	○			○			○	



授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法技術論Ⅲ呼吸・循環疾患	呼吸・循環疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。小児期疾患の症例検討も行う。	3前	30	1	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅳ小児期疾患	小児期疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。小児期疾患の症例検討も行う。	3前	30	1	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅴ難病・スポーツ障害	難病・スポーツ障害に対する理学療法評価・治療について学ぶ。症例検討も行う。	3後	30	1	○			○		○		
○			理学療法演習	理学療法についての課題を設定し、グループごとに討議、発表を行い学習する。	3通	60	2		○		○		○		
○			地域理学療法学	地域理学療法の意義・現状について学ぶ。具体的な事例をもとに、その流れについても理解する。	3後	30	1	○			○			○	
○			地域理学療法学実習	地域理学療法学の知識をもとに、実際の相手を対象にしながら、市街地に出向き学習する。	4前	45	1			○	○		○		
○			ケアマネジメント論	高齢化社会である今日、ケアマネジメントとは何か、なぜ必要とされているのかを主に学ぶ。	3後	30	1	○			○			○	
○			地域福祉論	地域福祉の意義・現状について学ぶ。障害があっても、年齢を重ねても地域で暮らせる工夫を学習する。	3後	30	1	○			○			○	
○			臨床評価実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)ができることを目標にする。	3後	135	3			○	○			○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床評価実習Ⅱ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)ができることを目標にする。	3後	135	3			○	○		○	○	
○			臨床実習Ⅰ	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し学習する。	4前	315	7			○	○		○	○	
○			臨床実習Ⅱ	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し学習する。締めくくりの実習となる。	4後	315	7			○	○		○	○	
○			作業療法概論	作業療法の歴史・定義などについて学び、関連法規や業務内容についても知り、職業理解を深める。	3後	30	1	○			○			○	
	○		理学療法特論	理学療法における徒手理学療法について、その体系を理解し理論から技術までを学ぶ。	4前	30	1	○		△				○	
	○		コミュニケーション論	社会人として基本となるコミュニケーション技術を理論的に習得し、将来の業務に役立てる。	1前	30	1	○			○		○		
	○		情報処理学Ⅰ	日常生活に必須となった、パソコンの基本操作とワード・エクセル及びインターネット利用の初歩を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
合計				73科目	3,645単位時間(115単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年間で3,645時間(115単位)を修得した者で、卒業認定された者	1 学年の学期区分	前期・後期
	1 学期の授業期間	23週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。